

〈実践事例〉〔共同研究〕

〔1〕生活単元学習による実践

p.50に示したように、子どもたちが楽しんで、目的意識を持って意欲的に取り組む生活単元学習に、遊びの要素を加味したり、からだ（心を含む）をしっかりと動かして何かを作り出す活動を強調したりして設定したのが表2に示す遊びの労働を重視した生活単元学習である。

表2〔遊びの労働を重視した生活単元学習年間計画〕

その中の6月～9月実践の「野外炊飯」、「臨海学校」「臨海学校」「運動会」の単元を中心に述べてみたい。〔海辺の棒引きゲーム〕



単元名	単元の概要	主な内容
6月 野外炊飯 (26時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>野外炊飯の道具づくり</li> <li>好きな献立で調理</li> <li>野外炊飯場を皆で作る</li> <li>自然や日光の中での生活</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>まき、かまど作り</li> <li>材木、石、道具の運搬</li> <li>カレー、焼きそば作り</li> <li>フォークダンス、ゲーム</li> </ul>
7月 臨海学校 (43時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>海辺の遊びの創意工夫</li> <li>夜のつどいの表現活動</li> <li>校外での集団生活</li> <li>水に慣れる、泳ぐ</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>砂場作り、砂の大型造形</li> <li>まき、小道具づくり</li> <li>歌、踊り、劇の練習</li> <li>泳ぐ、すもう</li> </ul>
9月 運動会 (76時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>準備活動に参加し、人に喜んでもらう</li> <li>運動を中心とした取り組み</li> <li>グループ間の得点競争</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>のぼり、得点板、入場門 歓迎アーチ等作り</li> <li>はちまき、ゼッケン準備</li> <li>種目練習、縦割りグループ</li> </ul>
11月 お客様を迎えよう (38時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>心をこめてお客様を迎える</li> <li>お客様を迎える準備</li> <li>環境整備など、みんなのために働く</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>おみやげ作り</li> <li>おもてなし、調理</li> <li>校内外の清掃・美化</li> <li>名産、民謡等の紹介</li> </ul>
2月、3月 文集・カレンダーづくり (40時間)	<ul style="list-style-type: none"> <li>一年間のまとめをする</li> <li>文集等の大量生産、集中的な仕事への取り組み</li> <li>作業グループの編成</li> <li>造形的表現活動が中心</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>文集の表紙、間紙、カットのデザイン・印刷</li> <li>取り・製本等の作業</li> <li>配布計画を立てて配布する。近隣社会と交流</li> </ul>

(1) 単元設定の視点

- 生活単元学習の条件が満たされている。  
(今迄の単元が基本になる)
- 自然の中、太陽の下で思いっきりからだが使え。共同場面がある。
- 単元の内容や作業の工程に、自由さ、手ごたえのある仕事が組み込める。
- 大人の道具がダイナミックに使え。

(2) 目標・評価の観点

設定した単元に子どもたちが「楽しんで力いっぱいからだを動かすこと」を目ざして、活動を引き出す条件設定や手立ての工夫をしながら単元を展開した。一方、個人目標を「望む姿・つきたい力」を設定し、活動の様子をできるだけ詳しく記録し、育ちを見とっていかうとした。

その目ざすところ、個々に程度は異なるが、目標・評価の観点として次の点を大切にした。

- 楽しく取り組み、満足感、充実感を持つ姿
- 進んで取り組む意欲的、集中的な取り組み姿勢
- 役割を意識し、やり遂げようと創意工夫する姿
- 好ましい集団参加をし、情緒が安定している姿
- からだをうまく使い仕事をきちんと完成する姿
- 道具使用の技能等が少しずつ向上する姿

以上のポイントを念頭におきながら、子どもたちの育ちを追い、まとめてみようとした。



〔自分の仕事はちゃんとやろうね〕

(3) 野外炊飯による実践

① 単元の意義

野外炊飯に向けて準備に創意工夫を凝らしたり、調理活動に繰り返し取り組む単元であり、

- テーブルや椅子、コップ作りなど道具を使った造形が組みやすい。
- 一人ひとりの能力差に応じた学習が組みやすい。
- 感覚運動的遊びや探索行動的遊びへ発展させることができ、人との関わりを育てることができる。

② 指導の手だて

- 題材は、遊び的要素から作業的要素まで、生徒の能力差に応じられるものとする。
- 粗大運動と微細運動を組み合わせ、運動・感覚両面の向上をめざす。
- 製作過程を通して、基礎的な技能が習得できるようにする。また、

できばえを問わず、作ったものは必ず生かし使う。 • 田口賞の楽しみを設ける。

- しおりの活用、目標設定、役割分担等により、自分の活動に見通しをもたせる。

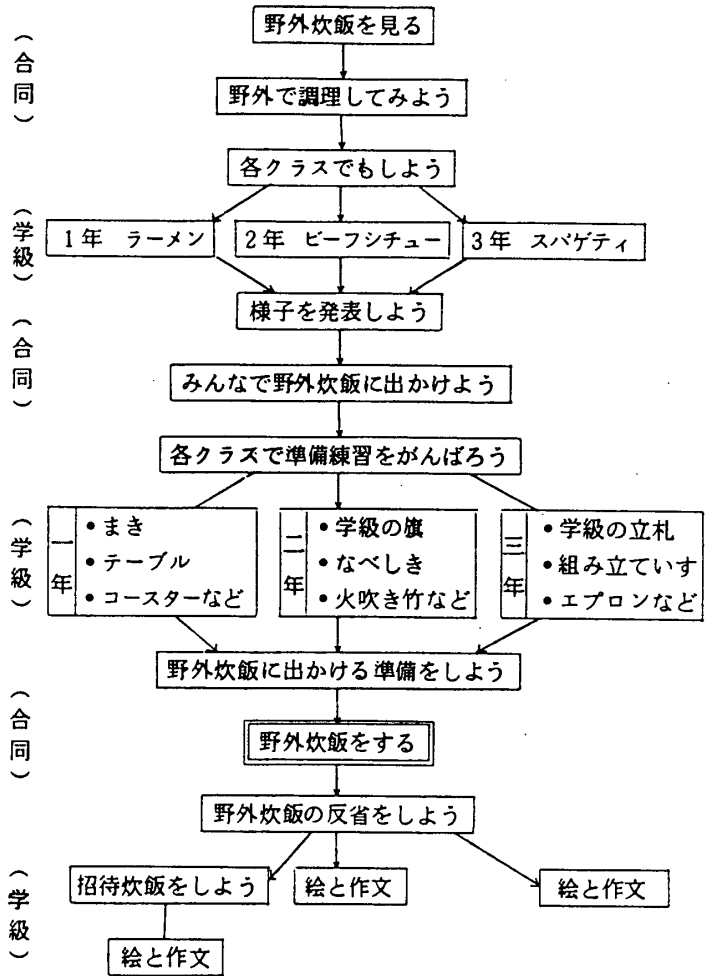
等の手だてを常に配慮しながら、上の図13に示す指導の流れで学習を展開していった。

③ 指導の流れと生徒の取り組みの実態

主な学習内容	楽しんで力いっぱい取り組んだ姿 (※1女…1年女子)
<ul style="list-style-type: none"> <li>◦ 野外で調理をしてみよう。</li> <li>◦ 炊飯場を作ろう。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 友だちや先生の動きをキョロキョロ観察し、「はしをとってきなさい」との指示です早く行動し、箸を持ってなべの近くに座り、おいしそうに食べる。(1女)</li> <li>• 長く伸びた草林の中に入り、かまを使って刈る。かまを使うことを楽しんでいる。(1女)</li> <li>• U字型のブロックを見つけ、自分でキャリアにのせて運ぶ。かまどを作るという目あてをもち、力いっぱい取り組む。(2男)</li> <li>• 重いブロックをすすんで持ち上げて一輪車に</li> </ul>



「野外炊飯」における学習の流れ



(合同)

(学級)

(合同)

(学級)

(合同)

(学級)

- のせ、馬力を出して押す。(3男)
- 炊飯をしよう。
- かまどの火が小さくなると必死であおいだ。食べる時「椅子が欲しい」と訴えて作ることになる。(2男)



- かまどを使うのが初めてで、こわごわだったが、マッチをすることからラーメンを箸でまぜることまで一人で頑張っている。全員のどんぶりを片付けた。(1女)

○ いろいろな道具を作ろう。

- 1年……まき、テーブル椅子、コップなど
- 2年……火吹き竹、なべ敷き、テーブルなど
- 3年……テーブル、椅子、看板など

- 木を足で押えて固定し、腰をおとしてのこをひく。切り落とすのがうれしくて、手を休めずにまきを作る。(1女)
- 大きなのこで大きな木を切るのを嫌い、「いやだ」と逃げていたが、「あともう少し」という見通しがつくと力いっぱいひき、切り終ると「やったあ」と、とびあがって喜んだ。(2女)
- 竹を切る時、嫌がらずに補助を受けて切る。教師の賞賛でうれしそうに取り組んだ。(2男)

○ 野外炊飯に出かけよう。



- 「もういい」「もうできん」と言いながらも時間いっぱいひき続け、椅子を作った。(3女)
- 軽トラから荷物を降ろし、文句も言わずに1年生のかまど用の重い石を運んだ。(3男)
- 炊飯にはあまり関わらないが、友だちがしているのを見てうれしそうに体を左右にふる。(2男)
- まきの燃えかすや残菜を、スコップで穴を掘ってうめる。最後まで見届ける。(1女)

④ 単元を終えて

- かまやスコップ、のこなど、大人が使う道具を使う喜びや、火をたく等、初めての体験に成功する喜びをたくさん味わうことができ、それが自信と意欲に結びついた。
- 教室でなく、外での調理というダイナミックさが良かった。
- 自分たちが作った物を、身近な生活の中に活用する楽しさを味わうことができた。
- 田口賞という競い合いが、担任も子どもたちも燃えさせた。等により、楽しんで力いっぱい活動することができた単元であった。

(4) 臨海学校による実践

① 単元の意義

臨海学校での生活、特に海辺の遊びや夜のつどいの練習や準備、それに関わる作業学習を中心とした単元であり

- 砂場作りや砂の造形などダイナミックな活動の場を設けやすい。
- 海や砂浜という雄大な自然を相手に伸び伸びと活動できる。
- 出し物練習や歌等表現化に関わる学習が設定できる。


等、力いっぱい体を動かして取り組むことができる単元である。

② 指導の手だて

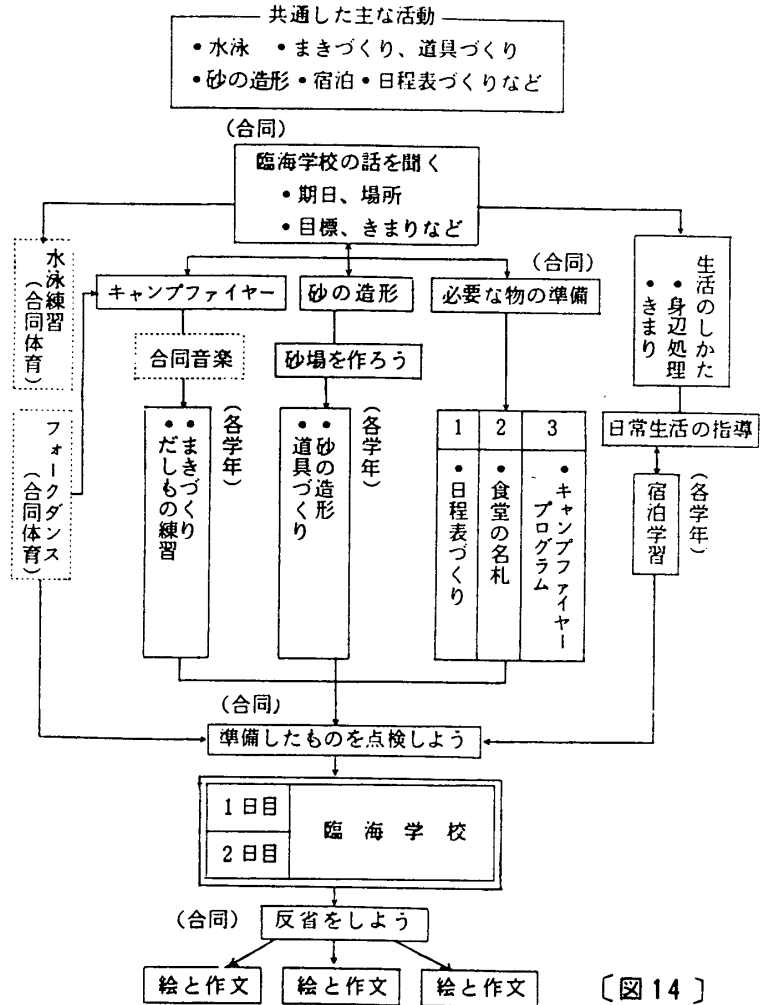
- 外に出て太陽や水、砂にまみれる経験を多く持たせる。
- 計画表や掲示物、言葉かけで楽しみや意欲を持続させる。
- その日の学習成果を認め、「明日は～をしよう」という目的意識、期待感を持たせる。

等の手立てに特に留意しながら、上の図14に示す流れで学習を展開していった。

③ 指導の流れと生徒の取り組みの実態

主な学習内容	楽しんで力いっぱい取り組んだ姿 (※1女…1年女子)
<p>○ 砂場を作ろう。 12 t の砂運び 道具の使用</p> 	<ul style="list-style-type: none"> <li>• 小さなバケツに自分で砂を入れて運ぶ、ゆっくりではあるが、マイペースで何往復も通う。時間いっぱい頑張る。(1女)</li> <li>• 大きなバケツに砂をたくさん入れて運ぶ。両手に持ってフラフラしながら一生懸命運ぶ。(3女)</li> <li>• スコップでどんどん砂をすくい、一輪車で何往復も運ぶ。「休もう」の声かけにも耳をかさない。根気強く取り組む。汗が流れている。とうとう手の平に豆ができてつぶれてしまう。(1男)</li> <li>• 休けい時、誰に言われることもなく砂場に出て砂運びをする。(3女、1男)</li> </ul>

「臨海学校」における学習の流れ



〔図 14〕

○ 砂でつくろう

- 大きな船をつくろう

(1年)

- ハイウェーをつくろう

(2年)

- 汽車を走らそう (3年)

• 自分なりの見通しが持て、どんどん砂を積み上げスコップの背で側面の砂を固めていった。完成した形のよい船を見てニッコリし、大きな声でバンザイ。(1男)

• 水と砂と体が一つになって砂

遊びに興じている。ウーの声(喜びの声)が始終続く。(1女)

• スコップで大きな山を作る。友達と両側からトンネルを掘っていき、通じた時には大きな歓声をあげて喜ぶ。(2男)

• 額に汗を浮べて大きな山を黙々と作っていく。(2女)

• 教室から模型の自動車を持ち出して山の上から走らせてみる。(2男)

• 川にかける橋にしようと大きな丸太を見つけて一生懸命運んでくる。手が痛くなると転がして持ってくる。(3女)

• 「やっこらせ」と言いながらも山を崩さないように真剣にトンネルを掘る。腰をのばさないで、ふんばって掘る。(3男)

• 自分たちで作ったドラム缶のトンネルをくぐりぬけると大きな声で「ヤッター」と言ってとびはねて喜ぶ。(3男)



○ 臨海学校

- 海で泳ぐ
- 砂浜で遊ぶ
- タベのつどい
- 花火等

• 海に入るのをとても喜び、海水がのどに入って咳込んでも泣きもせずいろいろな泳ぎを披露。指示もよく通る。(1男)

• 砂を固めて山を作るために海水を何回もバケツで運ぶ。(2男)

• キャンプファイヤーの周りでいつもより大きな声で歌う。汗が出るほど踊った。(2男)



#### ④ 単元を終えて

- 砂山での遊びにこんなに熱中するとは予想しなかったほど熱中した。また、砂場作りは、生徒たちにとって見通しを持って自主的に取り組める絶好の題材であった。
- 砂の造形やまきづくり、プール学習等、外での活動が多くダイナミックにのびのび動けた。
- 砂の造形は単に砂との関わりを持つばかりでなく、いろいろな道具を使用したり、小道具作りへと学習を発展させていくことができ、生徒もたいへん楽しく取り組めた。

(5) 二つの遊び的労働を重視した単元（野外炊飯、臨海学校）の実践を通して

① 子どもたちにこんな姿が見られた。

我々は二つの単元を実践しながら、一人ひとりの子どもにとって「楽しんで力いっぱい……」の姿と思われる行動を観察し記録を毎時残した。そのすばらしい姿は前述の展開の場面及び後述の個人事例の中にたくさん出てくる。

右の表3は、日々記録した20人の子どもの姿を集約し、ある程度段階（順序）を追って並べたものの抜粋である。この資料を作る過程で我々は、個人毎にその子らしい「楽しんで……」の姿があること、その姿を認めながらも次をめざした手だてを教師が常に意識している事の大切さを共通理解した。

**楽しんで力いっぱいからだを動かす姿を引き出す要因**

我々は「楽しんで…」の姿を記録すると同時にそれを引き出した要因についてもメモを残してきた。それ等のメモを集約したのが次の表である。遊び的労働、生活単元学習の長所が子どもたちの生き生きした姿を引き出す大きな要因になっている事が分かる。



- 楽しみ……がんばれば誉められる。作ったら食べられる。
- 実用性……作った物を使う。使って遊ぶ。役に立つ。
- 内容  
素材} ……砂、水、粘土等自由な物、出来栄えに捉われない、大きい物、現実度が高い、抵抗が小。
- 道具……本物・大人の道具、個に応じた道具。
- 学習の場…机から離れて、戸外、自然の中、体育館。
- 見通し……行事・日程の予定、進捗状況のシール、予告。
- 競争……田口賞、見せ合い、進捗表、情報交換。
- 共同作業…先生も一緒に働く、完成を皆で喜ぶ、はげまし合い、協力やアドバイス、まねる。
- その他……単元間の内容の発展、からだを動かす、汚れを気にしない、上達が見える、ほめられる。

**〔「楽しんで力いっぱい…」の具体的姿〕  
〔楽しんでいる〕**

- 皆と同じ所にいる。皆のする事を見る。
- 小刻みに指示に応じる。声かけに反応。
- パニックを起こさない。安心した顔。
- 笑顔、明るい表情、おしゃべり。
- 指示にさっと動く、できばえを見せる。
- 楽しみにする」自分から取りかかる。
- 熱中した時の声や歌が自然に出る。
- 真剣な表情、集中、無口、やめない。
- 家庭で話題にしたり、準備したりする。

**〔力いっぱいからだを動かす〕**

— 参加の態度、様子 —

- 小刻みの指示、賞賛にはげまされて活動。
- 近い目標へ自分をはげましてがんばる。
- 自分で目標を決めてがんばる。完成する。
- 友達を援助したり、協力したり、はげまし合ってやりとげる。

— からだの使い方・動かし方 —

- みんなの動きをまねたり、ついてまわる。
- 先生と一緒に、援助を受けてがんばる。
- からだをしっかりと動かし汗をかく。
- へとへとになるぐらい力を出し切る。
- 長い時間、熱中して、創意工夫して。
- ていねいに、たくさん、神経を集中して。

— 道具・材料へのかかわり方 —

- 形にならないが材料に思い切りひたる。
- 目的に合った使い方、作り方を工夫する。
- 道具が使えだす。上手に使える。
- 使いたい道具を選ぶ。考えて使う。



〔みんなで力を合わせて！〕

## ② 教師集団の子どもの見方が変わってきた

我々は、「楽しんで力いっぱい…」の具体的姿を探り、話し合いを重ねていく中に、「それぞれの子どもが表現する活動には意味があること、それを理解し援助しながら次の姿を見通した手立てをしていく」といった子どもの捉え方を事例的に多く学ぶ事ができ、少しずつ子どもの見方が変わってきた、次に示すのは子どもの捉え方を話し合った一事例である。

<p>[H児、情緒障害、集団に中々入れない、4～5才程度]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 小刻みに指示すれば集中して取り組める。が、やらされているのではないか。それでも楽しんでいるのか。</li> <li>• 自分から行動を起こす力が弱い。指示されないとしないのではなく、何をしたら良いか分らずいらしている。</li> <li>• やらされて、楽しそうな表情とは言えないが、指示によってする事が分り、皆の中で活動できた事は、H児にとっては満足であり、楽しんでいる姿である。</li> <li>• 指示の間隔を少しずつ広げながら自主的な取り組みに近づけていく。誉めすぎると興奮するので留意すること。</li> </ul>	<p>[K児、言語障害、自信がなくすぐ逃げ出す、4～5才程度]</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>• 少し抵抗のある事に「できん、分らん」と言って逃げしてしまう。わがままを言っているのでは……</li> <li>• 自己形成視の芽生えで、できない自分がだんだん見え出しているため、逃げ出したくなる。</li> <li>• 得意な事を誉め、成功感を味わわせながら苦手な場面に広げていく手立てが必要・認めて押し上げていくタイプ。</li> <li>• できない事でも手だての工夫できるように自信を持たせながら、押し上げていくこと。</li> <li>• 自信がちندان安定。自己コントロール、意欲となる。</li> </ul>
---	--

## ③ 子どもたちが少しずつ変わってきた。

9月になり、「運動会」の単元に取り組んだ。この単元は運動会が2回、同じパターンでくり返される単元構成になっている事もあって、後半の「連合運動会」への取り組みには、

- 計画表を使って準備や練習の内容が分って取り組む姿。
- 各クラスでの準備活動への積極的な取り組みと創意工夫。
- 学部を二分した2チームの練習での競い合い、整列や応援で協力する姿。キャプテンの動きとそれへの協力。
- ゴールまで力いっぱい走り込むやる気と持久力。
- 色々な演技への身軽な身のこなしと自信のある参加態度等々、配慮や手立てをする前に子どもたちが色々とすばらしい姿を見せてくれ、学部内のエネルギーの盛り上がりを感じた。結果はリレーにAチームが優勝、Bチームが2位の成績だった。



〔力いっぱい綱を引く〕

## (6) 反省と今後の課題

「野外炊飯」「臨海学校」「運動会」の各単元は「重い道具を一生懸命運び山道を登る姿」「手に豆ができるまで砂を運び続ける姿」「マラソンコースの旗を100本以上も作り上げる姿」に象徴されるように、身体的にも精神的にもエネルギーを燃焼できる単元であった。しかし、次の様な反省や今後の課題も山積みしており、改善をしていかなければならない。

- ① もっとゆっくり、余裕のある取り組みをし、力を定着させること。
- ② 知識、技能に関わる内容の配当と、その積み上げを単元を追ってずっと見つめていくこと。
- ③ 能力の低い生徒を生かす複数課題の工夫、意欲を持たせる工夫をすること。
- ④ もっともっと子どもたちを前面に出して活動させていく工夫をすること。